

## 『岩抜山 まちかまえたのか 相馬大作』

# 相馬大作

(1789～1822)

相馬大作は南部藩の浪人です。南部藩と津軽藩は戦国時代から対立していたそうです。大作は、参勤交代の帰りに秋田藩の白沢（現在の矢立小近辺）を通過する津軽藩主を岩抜山で襲撃することを計画しましたが、密告によりルートが変更され暗殺計画は失敗しました。

しかし、参勤交代の道筋を無許可で変更した津軽藩主は、その後隠居生活を余儀なくされ、大作も幕府から目をつけられ処刑されました。この「相馬大作事件」は、「南部藩主の無念を晴らす行動」と評価され、江戸の庶民達は「赤穂浪士の再来」と称えたそうです。

